

マ ガレット マルカス 米国出身の元ユダヤ教徒 (2/5)

:

明:

マ ガレットはユダヤ教徒のクラスメイトがイスラームに改宗したこと、そして彼女自身もそれにいたことを述べます。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: マ ガレット マルカス

📅 1 Apr 2014

集日 21 Apr 2014

私がゼニタと出会ったのは、カツ教授のクラスでした。彼女は私が出会った中でも最もわりで、魅力的な女の子でした。私は初めてカツ教授のクラスに入ったとき、空席を探して教室内を回しましたが、り合う2席をみつけた内、片方にはに本されたユスフ アリの注解付きクルアーン英の全3が置かれていました。私はそこに座ると、その本の所有者がなのか凄くになっていました。ラビカツの授が始まる直前、色白で背が高く、せた赤毛の女の子が私のに着席しました。彼女の目は非常に特 的だったため、私は彼女がトルコやシリアなどの近 国の出身ではないかと推 しました。他の生徒の大半は、ラビになることを目指す正 派ユダヤ教のい帽子をかぶった青年たちでした。私たち2人は、クラスの中の 一点でした。その日の午 、 を出るときに彼女は私に自己 介をしました。彼女は正 派ユダヤ教の家庭に生まれ、 は1917年の十月革命の数年前、迫害を逃れてロシアからアメリカに移住したのだと言いました。私は彼女の英 に微妙な があることに 付きました。彼女は、自分の家族とその友人たちは、イディッシュ だけを使っており、彼女自身は公立校に入るまでは全く英 を学んだことがなかったと言 いました。彼女の名はゼニタ リバマンだったものの、アメリカ化するために、 が性を リバマンからレンに えたことを しました。父 によって幼少の からヘブライ の手ほどきを受け、学校でもそれを学んだ彼女は、 在は さえあればアラビア の勉 に励んでいると

言いました。しかし、私はそのクラスの全 程を修了したものの、彼女は途中で全くの予兆なく出席を止め、二度と ってきてませんでした。数カ月が ち、私がゼニ タのことを忘れかけていたとき、突然彼女は をかけてきて、メトロポリタン美 で特 展示中の、精巧なアラビア 道とクルア ンの初期の彩 写本を一 に に行かないかとせがんできました。美 での 中、彼女はパレスチナ人の友人を 人として、イスラ ムに改宗していたことを私に告げました。

私は ねました。「なぜムスリムになることを めたの？」彼女は、重度の 炎を 症して病床にあったため、カツ教授のクラスに出席できなかったことを明かしました。その症状はあまりにも致命的だったため、 は彼女が生き延びることが出来ないと思っていたそうです。「ある昼下がり、高 で苦しんでいたとき、私はベッドの においていた クルア ンを手に取って朗 しはじめると、それは私の心を く さぶって、私はむせび泣いたのだけど、そのとき自分の回 を 信じたの。ベッドから立ち上がる程良くなると、私はすぐに友人のムスリムを2人呼び出して「シャハ ダ」、つまり信仰宣言をしたのよ。」

私はゼニ タとシリア料理のレストランで食事をするようになり、その 味に になりました。お金の余裕のあるときはクスクス（地中海料理）や、羊のロ ストにライス、またはジュ シ なミ トボ ルの浮かぶス プにピタパンをつけて食べたりしました。また、あまりお金のないときはアラビア式にレンズ豆とライス、または 豆、にんにく、玉ねぎのふんだんに入った「フ ル」と呼ばれるエジプトの国民的料理を食べました。

カツ教授が授 中に教えていたように、私は の中で旧 とタルム ドで んだものと、クルア ンとハディ スによる教えを比べ、ユダヤ教というものが非常に不完全なものだと 付いたため、イスラ ムに改宗することにしました。

Q:あなたがムスリムたちから受け入れられないことを危惧したこと

A:私のイスラ ム、そしてイスラ ム的 への 倒は、私の知るユダヤ人たちを激怒させました。彼らは私が最 の方法で彼らを 切ったのだと なしました。「そのような 判は、ただお前の先祖代々の家系に を り、人々からの憎 の 象となるだけなのだぞ」と彼らは私に告

げました。彼らは、たとえ私がムスリムになろうとしても、して彼らからは受け入れられることはない、と警告しました。私はムスリムによって、自分のユダヤ教徒という出自から名を着せられたことは一度もなかったため、そうした危惧は全く根のないものだったことが明されました。私はムスリムになってすぐ、すべてのムスリムたちから彼らの一として烈な迎を受けたのですから。

私がイスラームに改宗したのは、自分の家系や人々を嫌っていたからではありません。それはすべき欲求の拒否ではありませんでした。私にとって、それは偏狭さから的かつ革命的な信仰への移行だったのです。

Q:あなたがイスラームについて学ぶことを家族は反しなかったの

A:私は1954年からムスリムになりたいと思っていましたが、家族は私の得に成功していました。ユダヤ教やキリスト教とい、イスラームはアメリカ社会の一部ではないことから、それは人生を困にさせると私に警告されていました。また、イスラームは私を家族やコミュニティから孤立させるとも告げられていました。当、私の信仰心はそれらのプレッシャに耐え得るほどのものではありませんでした。こうした内的なもあって私は病を患い、大学を中退せざるを得ませんでした。そのの2年、私は人的なメディカルケアのもとに家にじこもっていましたが、病は化の一途を辿りました。1957-1959年の、私はによって病院にじめられていましたが、もし退院出来るまでに回したのなら、私はイスラームに改宗することを誓いました。

退院がされた、私はニューヨーク市でムスリムに会うことの出来るあらゆる会を探索しました。幸いなことに、期待を上回る程の洗されたムスリム男女に会うことが出来ました。また、私はムスリムのに事の投稿を始めました。

Q:あなたがムスリムになったのと友の反はどうでしたか?

私はイスラームに改宗すると、それ以外のことを考えたりしたり出来なかったため、族、そして彼らの友人たちは私を狂信者となしました。彼らにとって宗教とは、に人的な心事に留まるべきもので、趣味など同の文化的活の一部でなければならなかつ

たのです。しかし、私は クルア ンを んだ途端、イスラ ムは趣味などではなく、生き方
そのものであることを 信じたのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/119>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。